

2004. 6. 30

## 報道関係の皆様

### 「醍醐コミュニティバス・利用者10万人突破記念セレモニー」

醍醐地域にコミュニティバスを走らせる市民の会

会長 村井信夫

日頃より「醍醐地域にコミュニティバスを走らせる市民の会」への温かいご支援やご協力、ほんとうに有り難うございます。本年2月16日に運行を開始いたしました醍醐コミュニティバスは、おかげさまをもちまして、7月2日（金）に利用者数が10万人を突破する見込みとなりました。半年に満たない短い期間でこれだけ多くの皆様に醍醐コミュニティバスをご利用いただけたことは、多くの苦勞を重ねてバス事業を立ち上げてきた私たちにとりましても大きな喜びであり、今後、さらに醍醐コミュニティバスを発展させていくための勇気と希望が沸いて参ります。

この記念すべき機会に利用者の皆様にささやかな感謝の気持ちを捧げるセレモニーを下記の通り、開催することいたしましたのでご報告させていただきます。

この件に関し、ご取材を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

## 記

■日時 7月2日（金）午後1時～2時

■場所 地下鉄醍醐駅前の醍醐コミュニティバスバス停周辺

### ■実施内容

午後1時台に地下鉄醍醐駅前への下記の到着便から最初に降車されるお客様（各便1名様）に記念品（醍醐在住女性手作りの花をあしらったクラフト）を市民の会から贈呈します。

1号路線 午後1時16分（地下鉄醍醐駅前・パセオダイゴロー西館前）到着便

3号路線 午後1時15分（地下鉄醍醐駅前・パセオダイゴロー西館前）到着便

2号路線 午後1時42分（地下鉄醍醐駅前）到着便

4号路線 午後1時40分（地下鉄醍醐駅前）到着便

\* 地下鉄醍醐駅前・パセオダイゴロー西館前（1号と3号）は、外環状線北行き車線沿いのバス停

\* 地下鉄醍醐駅前（2号と4号）は、外環状線南行き車線沿いの「北寄り」のバス停（パセオダイゴロー東館（アルプラザ醍醐店）沿いにはバス停が2カ所あります）

※ご質問お問い合わせ等は、下記までお願いいたします。

醍醐地域にコミュニティバスを走らせる市民の会

## 醍醐コミュニティバス

### これまでの利用客数等に関するご報告

醍醐コミュニティバスに関しまして、いろいろとご協力いただきまして誠にありがとうございます。醍醐コミュニティバスは、2月16日の運行開始からの累積利用客数が、7月2日で10万人を突破する見込みです。

運行開始からこれまでのご利用状況等に関する情報をお知らせいたします。

#### I. 運行の状況

●2月16日(月)から6月28日(月)まで、運休はありません。(運行率100%)

●定時性はおおむね良好で、ほとんどの便は2~3分以内の遅れで運行しています。

ただし、花見期の最混雑時間帯においては10分程度の遅れが生じました。運行当初に発生していた団地内での駐車車両による遅れは、住民の皆様のご協力もあって改善してきています。

#### II. 利用者数の動向

●6月28日まで(134日間)の累計は、97,919人。7月1日終了までで、99,600人程度となり、7月2日(138日目)に10万人を突破すると予想されます。

●1日あたりでは731人です。(6月28日までの数値)

当面の目標としていました1日500人を大幅に上回っています。

●ただし、上記の数値は、醍醐寺への花見客の多い時期を含むものです。

花見客が特に多かった3月27日(土)から4月11日(日)までの16日間を除いた118日間の平均は1日あたり576人です。この数値も当面の目標を上回っており、これまでのところ順調なご利用動向となっています。

●6月は天候の影響等があり、1日平均515人となっています。

平日は、雨天の場合に利用者数が増加する傾向にありますが、土日は、雨天の場合、大きく減少する傾向にあります。本年6月は土日に雨天の日が多かったため、土日の利用が少なく、平均も小さい結果となりました。

●回数券の利用枚数は、運行当初は1週間110枚前後であったものが、現在は、1週間240枚前後に増加しています。回数券利用枚数の増加は、住民の皆さんの生活の中にコミュニティバスが定着しつつあることを示す一つの指標であると考えられます。

●時間帯別のご利用者数の動向は、ほぼ既報の通りです。(この項、既報分再掲)

・ご利用が1番多いのは午後2時台で、午後3時台、午後1時台、午前11時台、午前10時台がそれに続きます。

・この傾向からは、買い物や通院のためのご利用が多いものと推察できます。通勤時間帯のご利用が比較的少ないように、これまでの公共交通とは異なるニーズに対応しているものと思われま

す。

・一般のコミュニティバスと比較して午後のご利用が比較的多い傾向にあるようです。1日券を活用して地域内の移動性・回遊性が高まっているのではないかと推測します。

・なお、3号路線に使用しているマイクロバスにはカウンターがありませんが、3号路線も同様の傾向にあると考えられます。

●以上の状況より、利用動向については下記のように考察しています。

・当初のお試行的利用が一巡した後にやや低下する傾向が一時みられたものの、早期に回復し、花見シーズンには予想をはるかに超えるご利用があった。(最高 3231 人/日(4月4日))

・ゴールデンウィーク中も、醍醐寺カルティエ展等もあって、多くのご利用があった。(1000人/日～1500人/日程度)

・ゴールデンウィーク以降は、やや減少したものの平日は500～600人のご利用がある。  
特に雨天の平日は多く、700人～800人となっている。

・6月の土日は、雨天の日に300人台・400人台となることがあり、観光オフシーズンの利用促進が課題である。

・全体として地域住民への浸透は進んできていると見ることができるが、日によっては少ないこともあり、なお一層の利用促進に向けて努力していく必要がある。

なお、利用者数の計算方法は、これまでお知らせしてきた方法(3月9日付・4月16日付報告等)と同様です。

醍醐地域にコミュニティバスを走らせる市民の会

ヤサカバス

ご連絡先 醍醐コミュニティバス事務局 075-575-2616